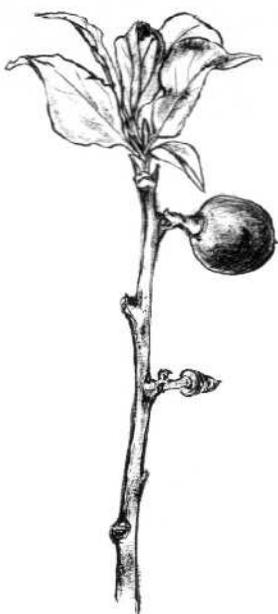


水トラストニュース

2006.11 No.16



もくじ

御嵩町町有林の山仕事が始まります！	……………1
11月3日の「暴力追放御嵩集会」について	……………3
間伐材の丸太を初出荷	……………5
雑記	……………7

御嵩町町有林の山仕事が始まります！

前々号（Vol.14）でお知らせしたように、御嵩町は800ヘクタールもの町有林がありながら、そのための管理予算が300万円しかないという悲惨な状況です。町有林のほとんどはスギ、ヒノキの人工林ですから、間伐や枝打ちなどの管理がなされないとモヤシのような線香林になってしまいます。その現況を心配する柳川町長からの要請もあって、下流域からの市民ボランティアによる町有林管理の可能性について検討してきました。



町役場に対して最低限の道具類及び消耗品の購入あるいは貸し出しの検討をお願いしていましたが、結果はゼロ回答。代わりに紹介された国土緑化推進機構の緑の募金基金からの助成金を申請しましたところ、100万円の助成が決定になりました。これである程度の道具類購入とボランティア参加者の傷害保険掛け金をまかなえます。

担当する町有林は、上之郷・綱木地区の3ヘクタールです。おそらくは3年がかりになるのではないのでしょうか。この町有林から徒歩5分ほどのところに、御嵩町綱木ふれあいセンターがあります。旧分教場のあったところで、現在はこぎれいな座敷付きの集会場が建っていて、便所や台所もあります。町教育委員会の管理ですが、隣接するマレットゴルフ場の利用者を中心に自主運営されているようです。これで懸案の便所の問題は解決しました。寝袋を持参すれば宿泊も可能です。

そこで11月からは当分、毎月第2土曜日に水源の森でこれまでどおりに山仕事を行い、綱木ふれあいセンターに宿泊して翌日の日曜日は町有林の整備作業をしてみることにしました。もちろん、日帰りの方、どちらか1日だけ参加の方も気軽に参加できるように手配します。1日だけ参加の方は土日ともに、いつも通りに中公民館午前10時集合でお願いしたいと思います。

マレットゴルフ愛好者でふれあいセンター運営の中心になっている方々の中に、前町議の徳田さんとおつれあいさんのまり子さんがいます。徳田さんは産廃処分場反対で頑張られた町議でしたし、やはり前々号で紹介したマツタケ林の復活に取り組む町内ボランティアである美土里隊のメンバーでもあります。センターには、徳田さん手造りの囲炉裏もあります。

せっかく泊り込むのですから、これまで不十分だった地元御嵩町民との交流を深めるチャンスと考えて、積極的に取り組みたいと思います。

このニュースをお読みになった皆さん、ぜひ一度山仕事にお出かけください。また、知人、友人の方にも声をかけてみてください。山仕事というと力仕事のように考えられがちですが、実は老若男女を問わず出来る仕事がたくさんあります。

(大沼淳一)



以下は参加呼びかけチラシです。

気軽に、楽しく！

御嵩町町有林整備に参加しませんか

とき：毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

12月は9日～10日、1月は13～14日

集合場所：御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、徒歩4分）

（車の方も歓迎です。公民館で台数の調節をして、乗り合わせで森へ向かいます。）

集合時間：午前10時（日曜日日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい）

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

（老若男女、どなたでも出来る仕事が見つかります。経験も問いません。）

申し込み・お問い合わせ先：TEL 0574-64-0216(中村) FAX 052-779-4291 (大沼)

Email : mitake500npo@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

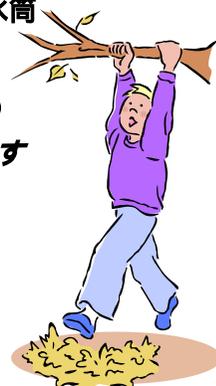
（ナタ、ノコギリ）

（宿泊出来る方は：寝袋、洗面セット、食器、ハシ）

宿泊先：ふれあいセンター（御嵩町上之郷字綱木）、日帰り参加も歓迎です

参加費：無料（但し、宿泊の方は自炊分の食事代を集めます。）

主催団体：NPO法人「みたけ・500万人の木曾川水トラスト」



11月3日の「暴力追放御嵩集会」について

柳川御嵩町長襲撃から10年ということで、元日弁連会長中坊公平氏と衆議院議員加藤紘一氏をむかえての集会がありました。約800人が参加し盛大なものとなりました。

主催者挨拶の後、柳川町長が話しをされ、襲撃された時に着ていた服を初公開し、特にワイシャツが特注で、その日初めて袖を通したものが、運び込まれた病院で脱がされることなく切断されてしまったことが悔やまれると、ある意味余裕のある言い方をしましたが、この事件を風化させたくない思いを感じました。栃木県鹿沼市の事件（数年前、市役所の職員が産廃問題に関し殺害されたが、犯人は捕まったが死体は見つからない。）にもふれ、生きながらえたのはよかったが、真相がわからないのは、それはそれで腑に落ちない。犯人は自首して真相を話してほしいと呼びかけました。また、情報公開は太陽のもとにさらされることで滅菌作用がある、知らされないことで不正がはびこり、誤った方向へ向かうことになる、と訴えました。

続いて、中坊氏の「暴力追放の力」と題された講演がありました。弁護士業務に関連して自身が被害を受けた暴力事件では、加害者の作為で、あやうく加害者にされるところだった、結局、加害者（外国人）は有罪となり、国外追放になった、との体験を紹介されました。また、豊島産廃不法投棄事件では、初期の段階で行政が組織として対応しなかったことが問題を悪化させたこと、住民の一矢報いたい声に動かされ、事件に取り組むことになった経緯を話されました。



間伐材の丸太を初出荷



9月12日、ヒノキの丸太を恵那にある岐阜県森林組合連合会の市場に出しました。水トラストにとって記念すべき初出荷、本格的な林業への第一歩(?)です。

丸太は「水源の森」近くのヒノキ林から7月、9月の山仕事で切り出したものです。切り出した丸太の保管、市場への丸太の運搬、売り主登録をはじめとする売り出しの手続き、などなど、いっさいを御嵩町の三共木材さんにやっていただきました。三共木材さんのこれだけの協力がなければ、私たちには出荷など到底不可能でした。まず深くお礼申し上げたいと思います。

丸太を林から運び出す作業は思っていた以上に大変な作業でした。市場に出すには、まっすぐな部分が3m以上必要とのこと。素人では使える部分-使えない部分の判断が難しいので、余裕をみて4mの長さに切りました。4mという長さの丸太は、私たちにとってはかなり巨大なものに感じられます。ちょっと太い丸太になると、片側を地面から浮かすだけでも複数の人力が必要です。

ヒノキを切った場所は、道から谷へ降りたところにあります。まず丸太を道へ運び出すのがひと苦労。ここで「ひっぱりだこ」という機械を使いました。次ページ左の写真をご覧ください。エンジンで丸太に引っかけたワイヤーを巻き取るようになっていて、うまく道まで引っ張り上げることができました。

次に、この丸太を軽トラックに乗せるのが重労働でした。何人もが力を合わせ、ようやく荷台へ、そして先端を運転席の方へ上げます。4mの丸太は軽トラックの全長よりかなり長いので、バランスよく固定するのも力と神経を使います。一番の大作は人力では上げるこ

とができず、右の写真のように、間伐材でこしらえた三脚にチェインブロックを設置して持ち上げました。

このようにして7月と9月の二度作業を行い、あわせて26本の丸太を三共木材さんまで運びました。いずれの作業日も10人近い人間が数時間働いています。もっとも、すべての参加者が常に働いているわけではありませんが、とにかく、それだけの労働の甲斐あって、最初の写真のように市場への出荷ができませんでした。

売り上げは全部で12,014円でした。思ったより多い？少ない？どちらでしょうか。

実は今回の作業のために軽トラックやチェインブロックをレンタルしていますが、丸太の売り上げはそのレンタル代にもなりません。木材の値段の安さについては私たちも話には聞いていましたが、実際に労働してみると、その「安さ」がいかなるものであるか、骨身にしてみても実感できました。



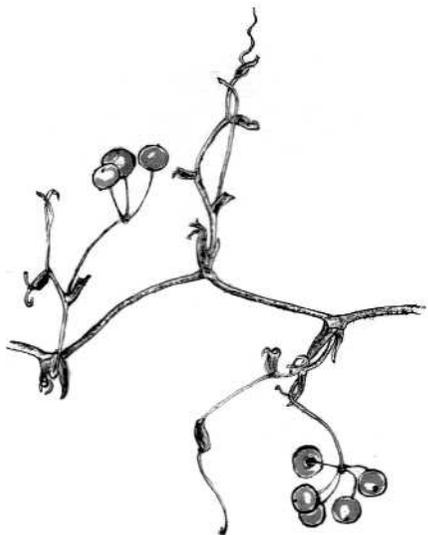
また今回の作業を通して明らかになった課題もあると思います。出荷できるのはまっすぐな丸太だけです。曲がった木、細すぎる木、それに地面に切り倒してからある程度日数がたってしまった木も出荷には適しません。結局、出荷できない木も相当数残されます。また一日で運搬できる木の数は、一日に伐採できる木の数よりかなり少ないことがわかりました。(それだけ運び出しが大変だということです)したがって、運び出されずに終わる間伐材はこれからもますます増えていくと思われます。たとえ無償でもいいので、運び出しが容易なもっと小さなサイズで受け入れてくれる先を探すことも必要かも知れません。

とはいえ丸太の初出荷は、私たちにとっては(少なくとも私にとっては)感動的な体験でした。運び出したヒノキの丸太は、たとえ市場での値段が数百円であっても、どれも立派で美しく見えました。これなら、たとえ少しばかりお金がかかってもぜひ続けていきたい、と思っています。(でもそれでは「本格的な林業」とは言えませんが・・・)

(M.I.)

雑記

11月2日、リコー中部の「エコひいき」助成を受けた団体があつまり交流会が催されました。この「エコひいき」という制度のユニークなところは、助成金を出すだけでなく、援助を受けた団体の活動を拡げるためのしくみが組み込んである点です。団体の活動に社員の方が参加して下さる(9、10月の作業にも参加していただきました)。あるいは、顧客の方々に活動を知らせ、どれだけ支持が得られるかで助成総額を決める。この交流会も、そのような活動の広がりを意図した企画のひとつです。同じように環境に係わる活動をしていても、団体同士お互い知り合う機会はありません。助成対象となった団体のメンバーが一堂に集まることで、団体相互のつながりを作ろうとこの交流会が企画されました。半日の集会では、名前を覚える程度、になったかならないか、ですが、今までまったく他の団体のことを知らなかった私にとっては興味深く刺激的な集まりでした。また、この制度のもう一つユニークなところは、カッコよさ、にこだわっている点ではないかと思います。多くの人々に制度や活動を認めてもらうためには、まず目立つことであり、それがカッコよく見えることである。そんな意識を何となく感じます。それはたぶん現実的で有効な方策であり、「エコひいき」では実際に成功をおさめつつあるのではないかと、思いました。そのセンスをまねできるといいのですがむずかしい。このニュースの編集もなかなか上手いきません。(最後の文が編集後記っぽいです) (M.I.& K.I.)



表紙と裏表紙の絵：早川しょうこ作

発行

特定非営利活動法人NPO みたけ・500万人の木曽川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区区馬2-28-14 名古屋働く人の家気付
TEL&FAX 052-682-4737
郵便振替00800-9-64810
URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>
e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp